

# 火おこし体験【自主活動】

## 1 活動のねらい

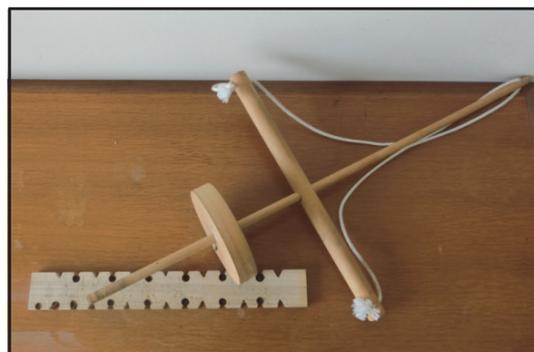
昔の方法で火をおこすことで、火のありがたみや、太古の人たちの知恵を学びます。

## 2 活動の概要

舞ざり式の火おこし器で、皆で協力しながら交代で火起こし体験をします。野外炊事の火付けの活動としても実施可能です。

## 3 人数・時間・場所

- (1) 人数 160名程度まで
- (2) 対象 小学生以上
- (3) 期間 野外炊事実施期間と同様
- (4) 時間 30分～1時間程度
- (5) 場所 野外炊事場・南部曲り家



## 4 料金

1セット300円（1セット8名程度）

## 5 指導について

活動は、交流の家職員説明後、団体の自主活動になります。

## 6 準備する物

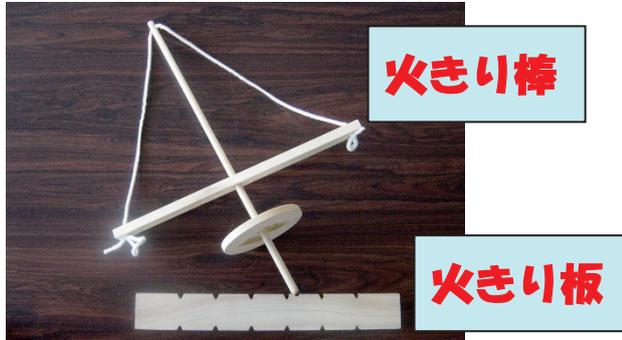
区分	内容
交流の家	・火おこし器 ・ひきり板 ・かんなくず ・麻紐

## 7 活動の流れ

- ① 交流の家職員が、火おこし器の使用方法を説明します。
- ② 参加者は交代しながら火おこしを体験します。
- ③ 煙が出て火種ができたら、ほぐした麻紐やかんなくずに火を移し、さらに、落ち葉や小枝などに火を移して徐々に火を大きくします。
- ④ 引き続き野外炊事をする場合は、道具を片付けます。

# まいぎりしき 舞ギリ式火おこし

火きり棒の下にははずみ車を付け、回転力を使い摩擦熱で火をおこします。  
江戸時代になってからの火おこし方法と考えられています。



## 【手順】

①鉄板やコンクリートの上に、麻布をしき、その上に火きり板を乗せる。



②火きり板の切れ込み部分に麻ひもをほぐしたものを置く



③火きり棒を回して、ひもを軸に巻きつける



④火きり棒の先端を火きり板のくぼみに押しつける

片ひざをついて、  
前傾姿勢で  
垂直に力をかける

⑤はずみ車の回転力を利用して、火きり棒を回転し続ける



⑥煙が出て、黒いおがくず(火種)が切れ込み部分にたまる。  
大豆位の大きさの火種がたまったら、麻ひもをほどいたもの  
のところにそっと落とす。



⑦弱く長く息を吹きかけ続ける



⑧煙がもうもうと出て、内部が赤くなったらもう少し

⑨着火!



## 火おこしのポイント

①火きり棒が穴から外れる

➡ 棒を真上から見るようにして回転させよう!

②黒いおがくず (火種) ができない

➡ 棒が直角に板に当たるようにして、  
もっと早く動かしてみよう!

③火種が消える

➡ たくさん黒いおがくず (火種) が  
たまるまで、動かしてみよう!

